

表1 各試験区の処理概要(令和2年)

試験区	3月23日 (発芽前)	4月24日 (新梢伸長期)	5月28日 (自己摘心後)	6月23日 (幼果期)
1回散布区	IC(60)	-	-	-
2回散布区	IC(60)	-	IC(60) +P(1,000)	-
3回散布区	IC(60)	IC(80) +P(1,000)	IC(60) +P(1,000)	-
4回散布区	IC(60)	IC(80) +P(1,000)	IC(60) +P(1,000)	Ko(2,000) +K(200)
無処理区	-	-	-	-

1) 供試薬剤: ICボルドー66D(IC)、パラフィン系展着剤・アピオンE(P)
コサイド3000(Ko)、炭酸カルシウム剤・クレフノン(K)
カッコ内は希釈倍数を示す

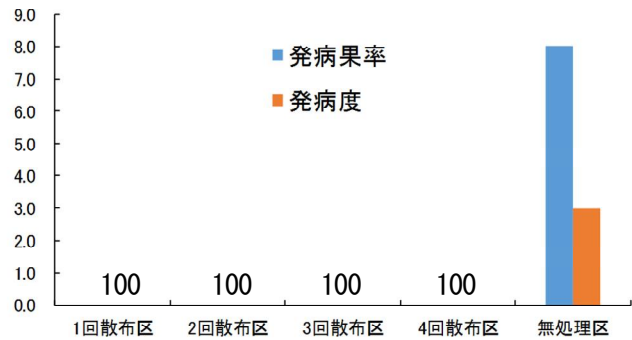


図2 銅剤の散布回数による防除効果(令和2年)

- 1): 供試品種: 'ゆら早生'(8年生樹)、'YN26'(8年生樹)
- 2): 調査方法: 表に記載の時期に各薬剤散布後、8月17日に果実発病を調査し、発病果率を算出
- 3): 数値は防除値を示す

表2 各試験区の処理概要(令和3年:多雨条件)

試験区	3月24日 (発芽前)	4月8日 (新梢伸長期)	5月8日 (新梢伸長期)	5月23日 (自己摘心後)
1回散布区	IC(60) +P	-	-	-
2回散布区	IC(60) +P	-	IC(80) +P	-
無処理区	-	-	-	-

- 1) 供試薬剤: ICボルドー66D(IC)
パラフィン系展着剤・アピオンE(P)
カッコ内は希釈倍数を示す
- 2) 4月8日から5月8日にかけて304mmの降雨があり、多雨条件下での試験となった

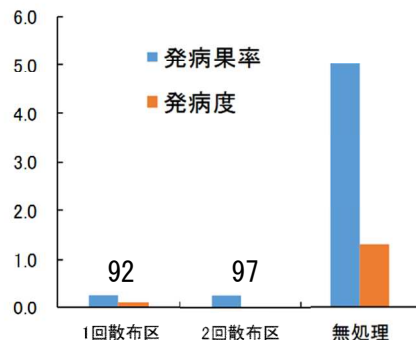


図3 銅剤の散布回数による防除効果(令和3年:多雨条件)

- 1): 供試品種: 'ゆら早生'(26年生樹)
- 2): 調査方法: 表に記載の時期に各薬剤散布後、9月21日に果実発病を調査し、発病果率を算出
- 3): 数値は防除値を示す

表3 伝染源の除去と薬剤散布による防除効果(令和4年:伝染源が多い条件)

処理概要		葉の発病(7月11日調査)				果実発病(9月23日調査)			
3月23日(発芽前) 伝染源(発病葉)の除去	3月28日(発芽直前) 薬剤散布	調査 葉数	発病 葉率(%)	発病 度	防除 値	調査 果数	発病 果率(%)	発病 度	防除 値
すべて除去	-	800	0.0	0.0	100	400	0.0	0.0	100
発病葉率2% まで除去	-	800	3.6	0.6	71	371	3.2	1.5	0
-	散布	800	1.4	0.2	90	374	0.3	0.04	96
発病葉率2% まで除去	散布	800	0.6	0.2	90	400	0.0	0.0	100
-	-	800	10.0	2.1	-	383	5.0	1.1	-

- 1): 供試品種: '宮川早生'(14年生樹)
- 2): 供試薬剤: ICボルドー66D(60倍)+アピオンE(1,000倍)
- 3): 接種方法: 前年の5月と10月に葉に対してかいよう病菌を接種
各区の試験開始直前の発病葉率は平均17~18%/区と伝染源が多い条件下での試験となった

[その他]

予算区分: 県単(農林水産業競争力アップ技術開発事業)

研究期間: 令和2~4年

研究担当者: 直川 幸生、武田 知明

発表論文等: なし

ホームページ掲載の可否: 可